

第7章 ワークショップからの課題と問題点

重点整備地区内の生活関連施設とネットワークの課題と問題点については、「筑紫野市交通等バリアフリー基本構想作成のためのワークショップ」において数多くの意見をいただきました。

ワークショップに先立ち現地踏査を実施し、JR二日市駅、西鉄二日市駅ならびに西鉄二日市南新駅（仮称）などの周辺道路ならびに生活関連経路についても実態を調査したうえで、詳細な課題・問題点を抽出し、意見交換を行いました。

ワークショップにあたっては、旅客施設や周辺道路などを考慮して重点整備地区を4つのゾーンに区分し、それぞれについて主な課題と問題点及び改善要望などを論議し、概要を以下にまとめました。

7-1 旅客施設とその周辺の課題と問題点

JR二日市駅、西鉄二日市駅ならびに西鉄二日市南新駅（仮称）とその周辺の主な課題と問題点及び改善要望などについて。

(1) JR二日市駅とその周辺の問題点

ア．利用動線

車いす使用者や高齢者にとって道路や駅舎での段差は、利用が困難となります。駅舎に向かう駅前広場は勾配がきついところがあります。このほか駐車台数が不足しています。

駅構内はコンコースとホームを結ぶエレベータまたはエスカレータが未設置で、バリアフリー対応の駅への改良が望まれます。一部のホームと停車車両との間に段差があり、車いす使用者や障害者の乗り降りの際は危険です。

イ．情報案内設備

案内所や券売機への誘導用ブロックが途切れています。また、券売機に点字がない箇所があり表示が求められます。車椅子使用者は視点が低いために、設置位置が高い時刻表は分かりにくくなっています。なお、乗降客が多いためホームの階段周辺の誘導用・警告用ブロックが磨耗して、認識しにくくなっています。

ウ．利便設備

高齢者や障害者のみならず妊産婦などにとって清潔で余裕のある広さのトイレが求められます。現駅舎では多目的トイレ等が施設の端に位置しており、場所が分かりづらい状況です。また位置を示すレイアウト図も（点字対応も含めて）ありません。

(2) 西鉄二日市駅とその周辺の問題点

ア．利用動線

西鉄二日市駅は東西に改札があります。東口及びその周辺ではバリアフリーについて十分な対応がされていますが、西口周辺では歩道がないか、狭い歩道しかなく、違法な駐車や駐輪も多く、車いす使用者や高齢者の動線として危険な箇所となっています。

西口では改札が2階にあります。エレベータやエスカレータが未設置なために車いす使用者や高齢者には大変です。

イ．情報案内設備

西口2階にある改札口の周辺では、視覚障害者誘導用・警告用ブロックが設置されていますが、階段を利用する視覚障害者には誘導や案内が不足して分かりにくいものとなっています。

(3) 西鉄二日市南新駅（仮称）とその周辺の問題点

建設予定地周辺について問題点をあげます。

ア．利用動線

西鉄二日市南新駅予定地への動線となる道路（筑紫野筑穂線）には歩道がなく、歩道が設置されている道路（福岡日田線，二日市停車場線）でも幅員が狭く、車いすでの使用は困難です。

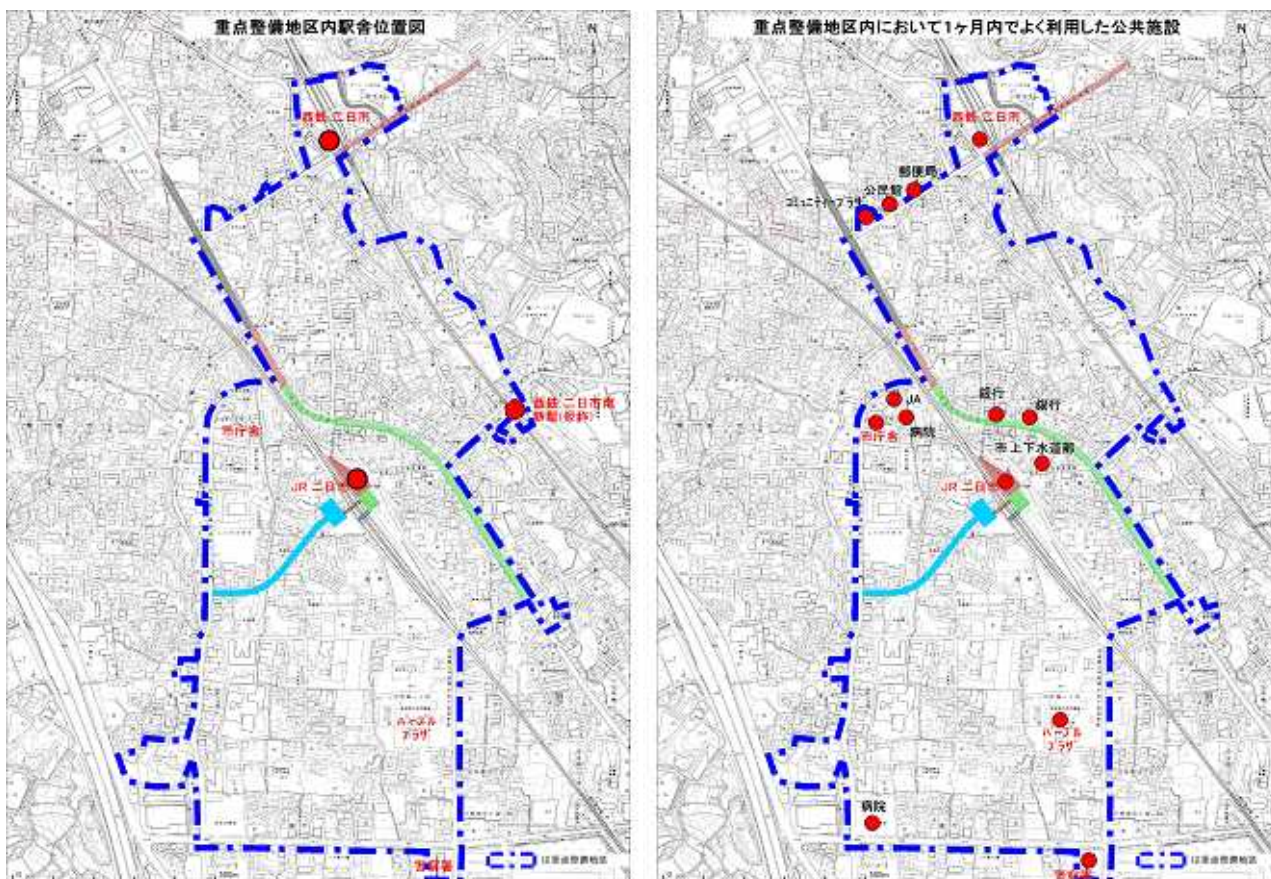


図7-1 旅客施設と生活関連施設

7-2 道路の課題と問題点

重点整備地区における道路の課題・問題点及び改善要望などについて。(図7-2参照)

(1) 生活関連経路A

生活関連経路Aは、JR二日市駅から商店街そして西鉄二日市駅を結ぶ経路です。

中央通り商店街には歩道がありますが幅員が狭く、歩道上には看板や商品のはみ出しなどがあり、一部では通行の支障となっています。また、歩道の材料は景観に配慮したものとなっていますが、降雨時には歩道の表面が滑りやすく高齢者や視覚障害者などには転倒の危険があります。さらに、本町通り商店街には歩道がありません。

(2) 生活関連経路B

生活関連経路Bは、JR二日市駅と設置予定の西鉄二日市南新駅(仮称)を結ぶ経路です。

経路中の一部に歩道が設置されていますが幅員が狭くなっています。また、病院等が立地している箇所では出入口が接道し歩道が切断されています。なお、歩道とともに設置された側溝に敷設されたグレーチングの排水穴が大きく、杖使用者や車いす使用者にとって危険なものとなっています。

天神交差点は交通量が多いほか、筑紫野筑穂線では、歩道が未設置となっています。

歩道の設置のほか、踏切や交差点などでは信号機の設置とともに音響装置の設置が望まれます。

(3) 生活関連経路C

生活関連施設Cは、重点整備地区南西(温泉地区)から市庁舎そしてJR二日市駅を結ぶ経路です。

ここは一部を除き歩道が設置されていますが、幅員が1m程度と狭くなっています。歩道内に電柱が設置されている箇所や、歩道の真ん中に信号柱が立っているなどの危険箇所があります。

市庁舎駐車場は経路に接道しており出入車両も多く危険な箇所となっています。また歩道は車両乗入口により波打っており、歩きにくく危険なものとなっています。

JR二日市駅へは大きく迂回しなければなりません。また、JR線高架の下を通るために勾配がきつい歩道となり、高齢者等にとって困難が多くなっています。

(4) 生活関連経路D

生活関連経路DはJR二日市駅から山口踏切を渡り、警察署や温泉地区を結ぶ経路となっています。

踏切から警察署へ向かう歩道の一部が未設置となっています。山口踏切の前後では歩道が一部で途切れています。また、踏切への進入勾配がきつくなっており、高齢者や障害者等の利用には困難が多くなります。

JR路線に沿って歩道が設置されていますが、幅員が狭く歩道面は道路から高くなっています。そのため障害者や車いす使用者にとって車道側への転倒など危険な箇所となっています。なお、朝夕時には通勤や通学の歩行者や自転車の交通量が多く危険な箇所となっています。

(5) 生活関連経路E

生活関連経路EはJR二日市駅から県道をとおり西鉄二日市駅への経路です。

ここは交通量が多く障害者や車いす使用者にとって危険な箇所となっています。筑紫野古賀線には歩道がなく、福岡日田線に沿っては歩道が設置されていますが、歩道の横断方向の勾配がきつく、一部は高低差が大きい歩道となっています。なお交差点では視覚障害者警告用ブロックの欠落もあります。

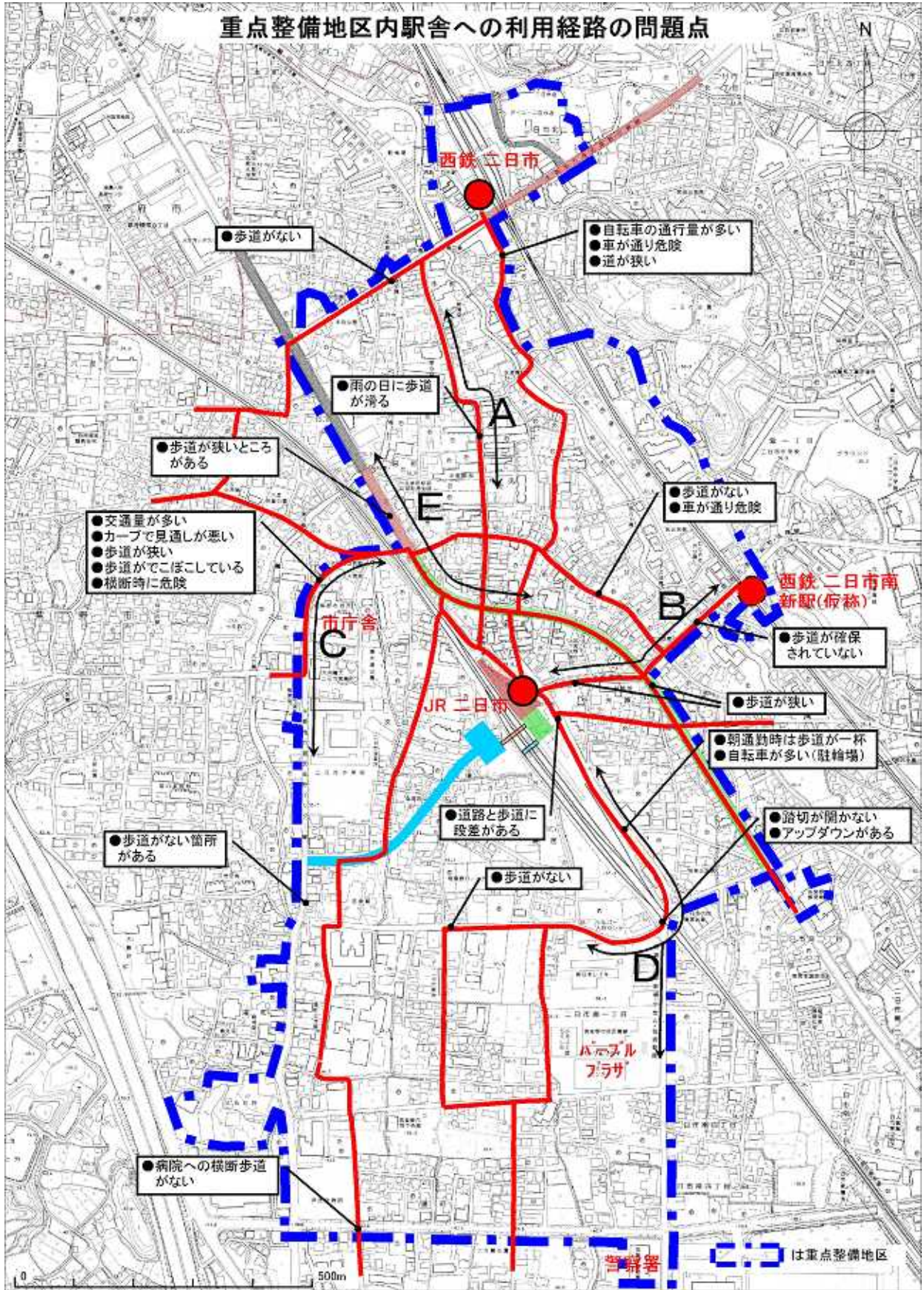


図 7 - 2 駅への経路と道路の問題点

7-3 生活関連施設における課題

本構想での重点整備地区には、官公庁施設や病院など医療施設及び業務施設などが集積しており、高齢者や障害者の利用が多い施設も数多くありますが、視覚障害者用誘導ブロックや多機能トイレが未整備であるなど、一部に十分なバリアフリー対応がされていない箇所があるため、これらの改善に向けて継続した取り組みが必要となっています。

なお、二日市温泉地区では、車いす使用者の利用出来る宿泊施設への対応がはじまっています。

7-4 生活関連経路における課題

JR二日市駅や西鉄二日市駅ならびに西鉄二日市南新駅（仮称）を含む重点整備地区には、駅間をむすぶ商店街や地域の官公庁施設や業務施設が立地しており、それらを利用する人々が交流しネットワークを形成し、そこで生活する住民や数多く訪れる人々が、安心して快適に歩くことができる「まち」にする必要があります。

しかし、現在は、県道や市道が入り組み、幹線道路においても通過車両が多く、歩道未設置など様々な交通問題を抱えており、このような状況では、バリアフリーの取り組みの効果も減少してしまいます。このため、当該地区のバリアフリー化を推進するために駅と駅、駅と施設、それらへの経路を、一体的にネットワークする交通環境を含めた取り組みが必要です。

7-5 生活関連経路のゾーン別課題

ゾーン別課題のまとめ

① 市庁舎ゾーン

- 市庁舎→JA→鹿児島本線間の歩道再編整備
- 庁舎うら玉泉館方向への歩行者道路の新設整備

② 西鉄二日市駅及び商業ゾーン

- 県道35号線の歩道整備
- 県道112号線の交通量増加に伴う安全対策
- 商店街内の歩行者専用道化ならびに歩道整備
- 商店街周辺道路との有機的関連性の検討
- 西鉄二日市駅及び広場整備

③ 西鉄二日市南新駅(仮称)連絡ゾーン

- 西鉄二日市南新駅(仮称) → JR二日市駅の連絡道路の歩道整備
- 県道112号線の利便施設への歩道整備

④ パープルプラザ、温泉、警察ゾーン

- 南北方向の歩道整備
- 東西方向の歩行者道路の確保
- パープルプラザ前歩道の警察署までの延長

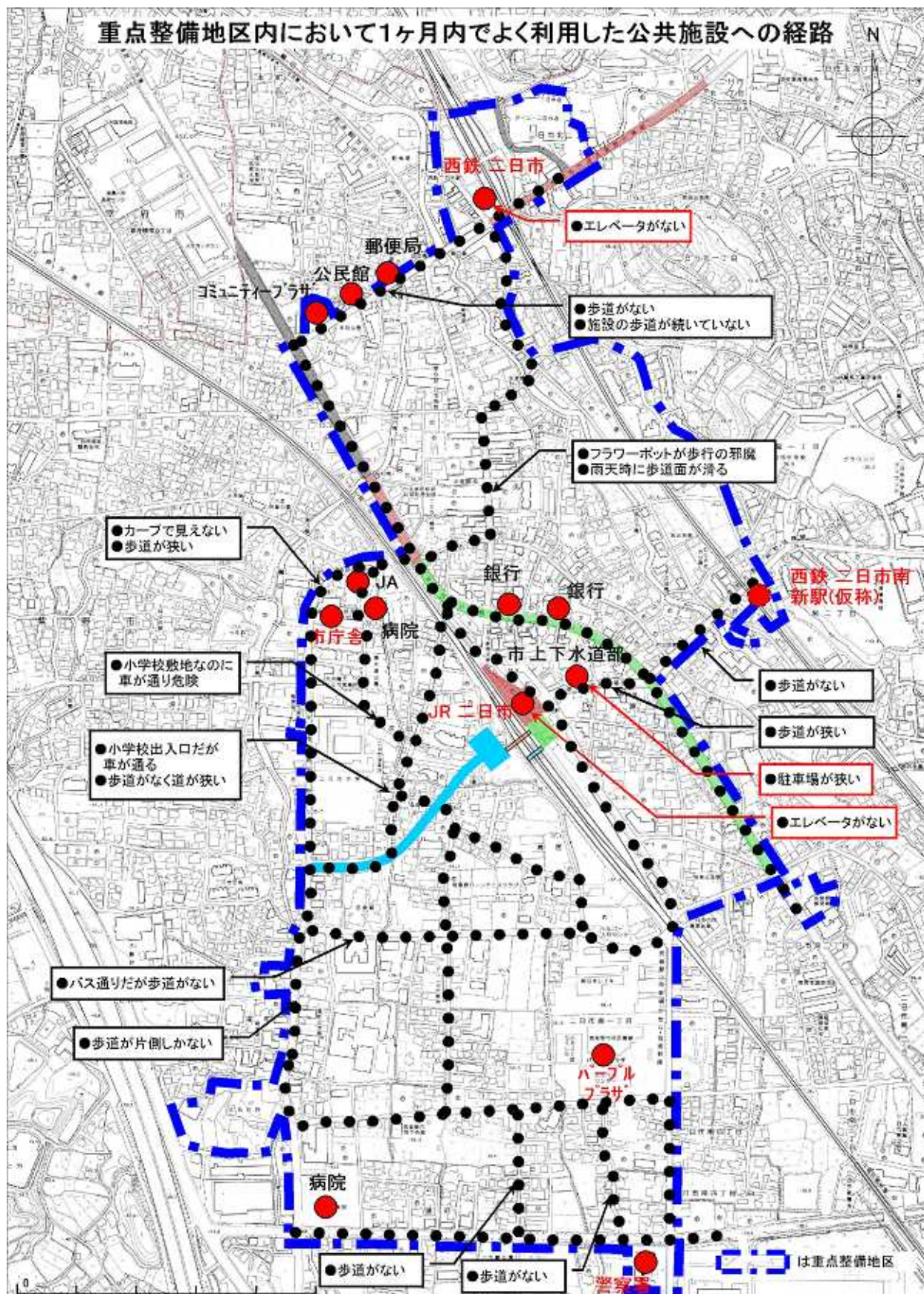


図 7-3 公共施設への経路と問題点

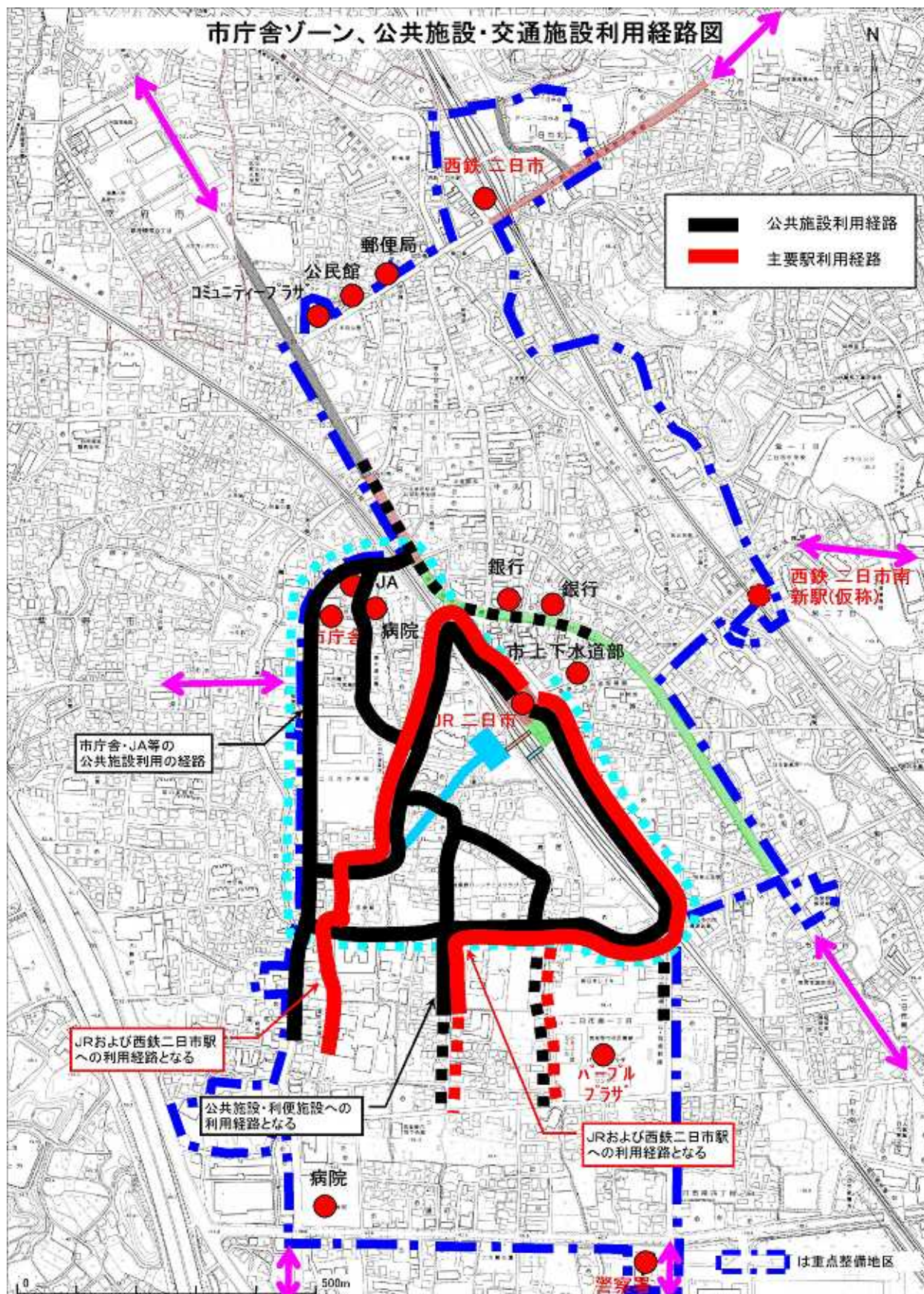


図 7-4 市庁舎ゾーン

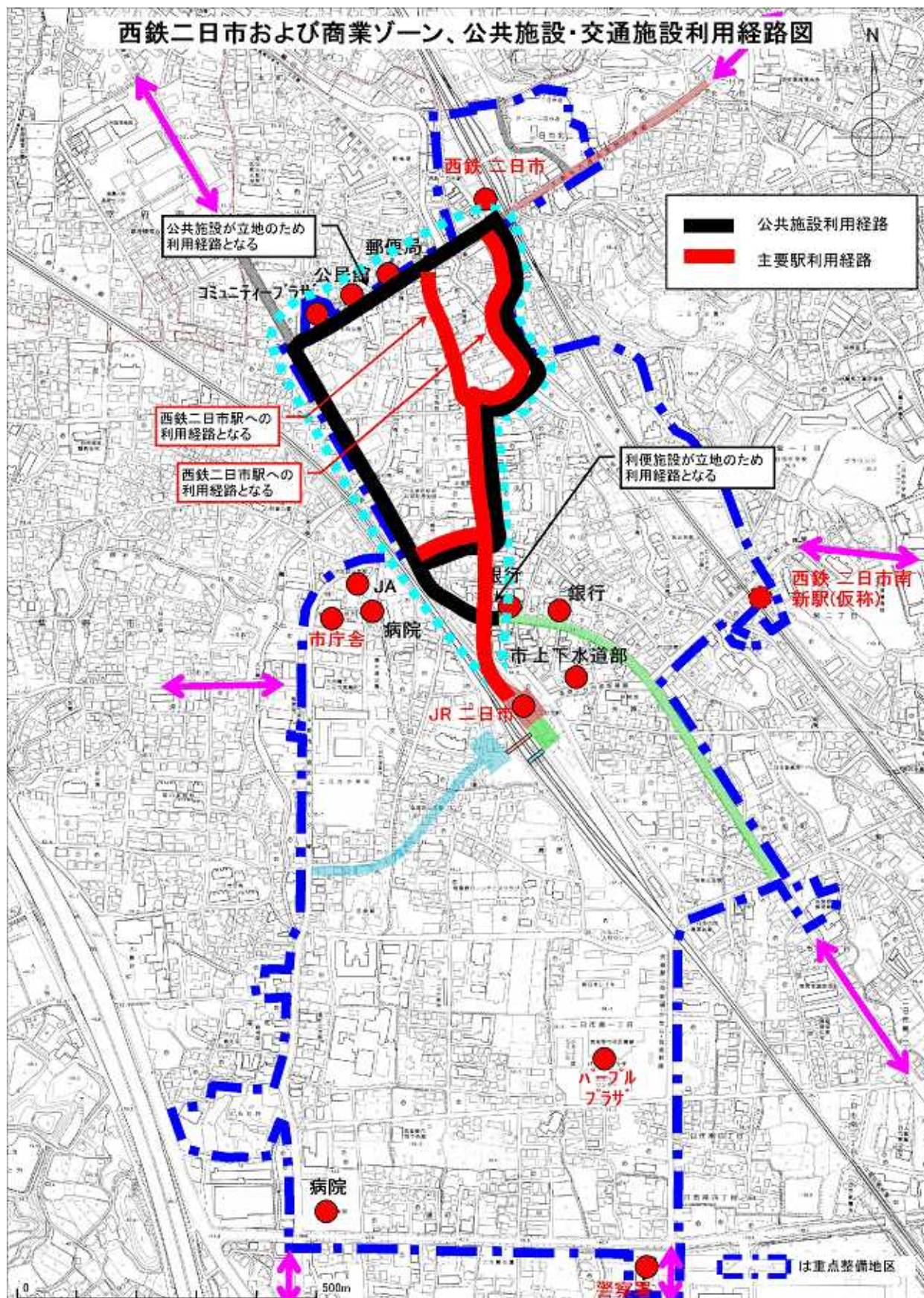


図 7 - 5 西鉄二日市駅および商業ゾーン

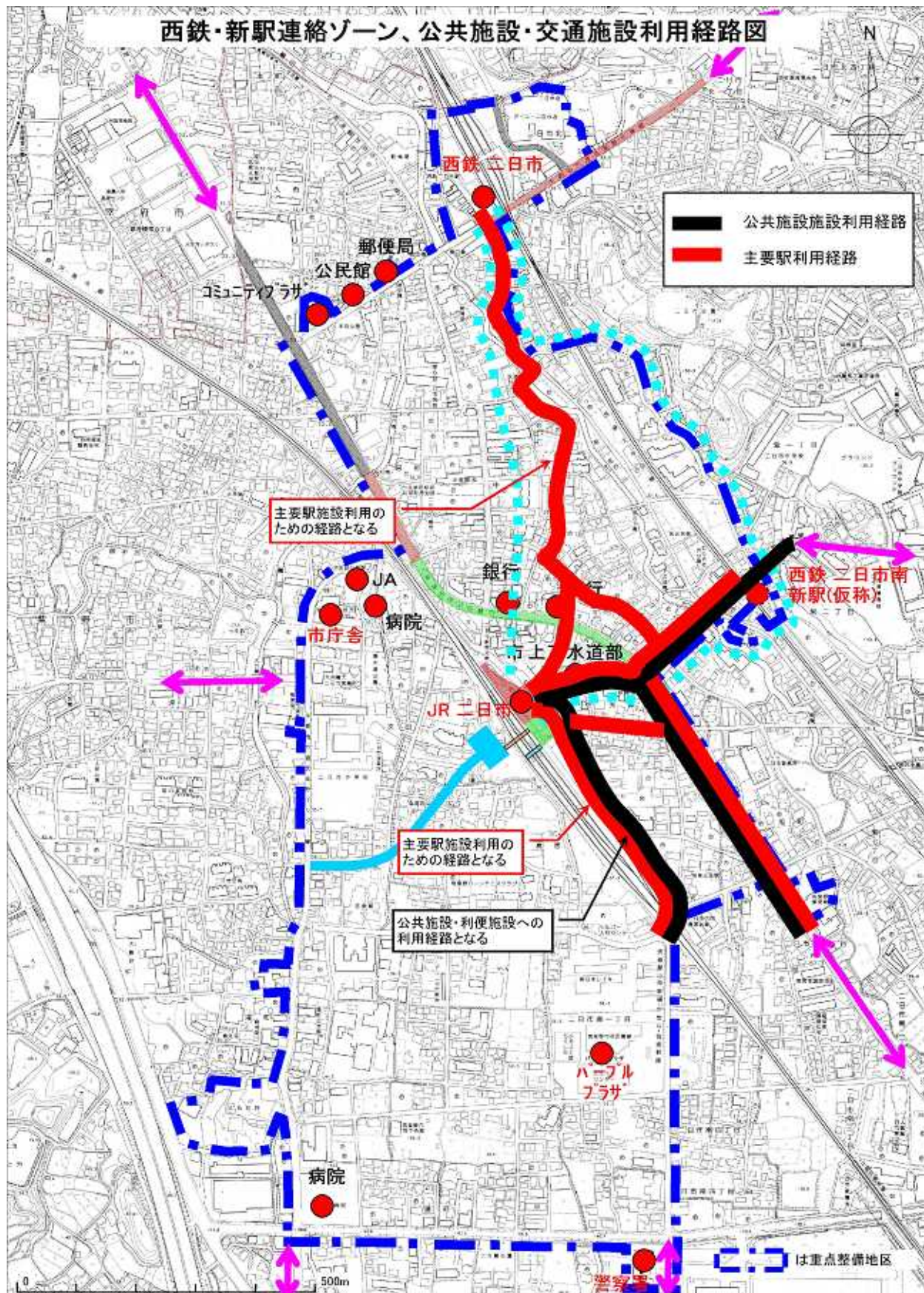


図 7-6 西鉄・新駅連絡ゾーン

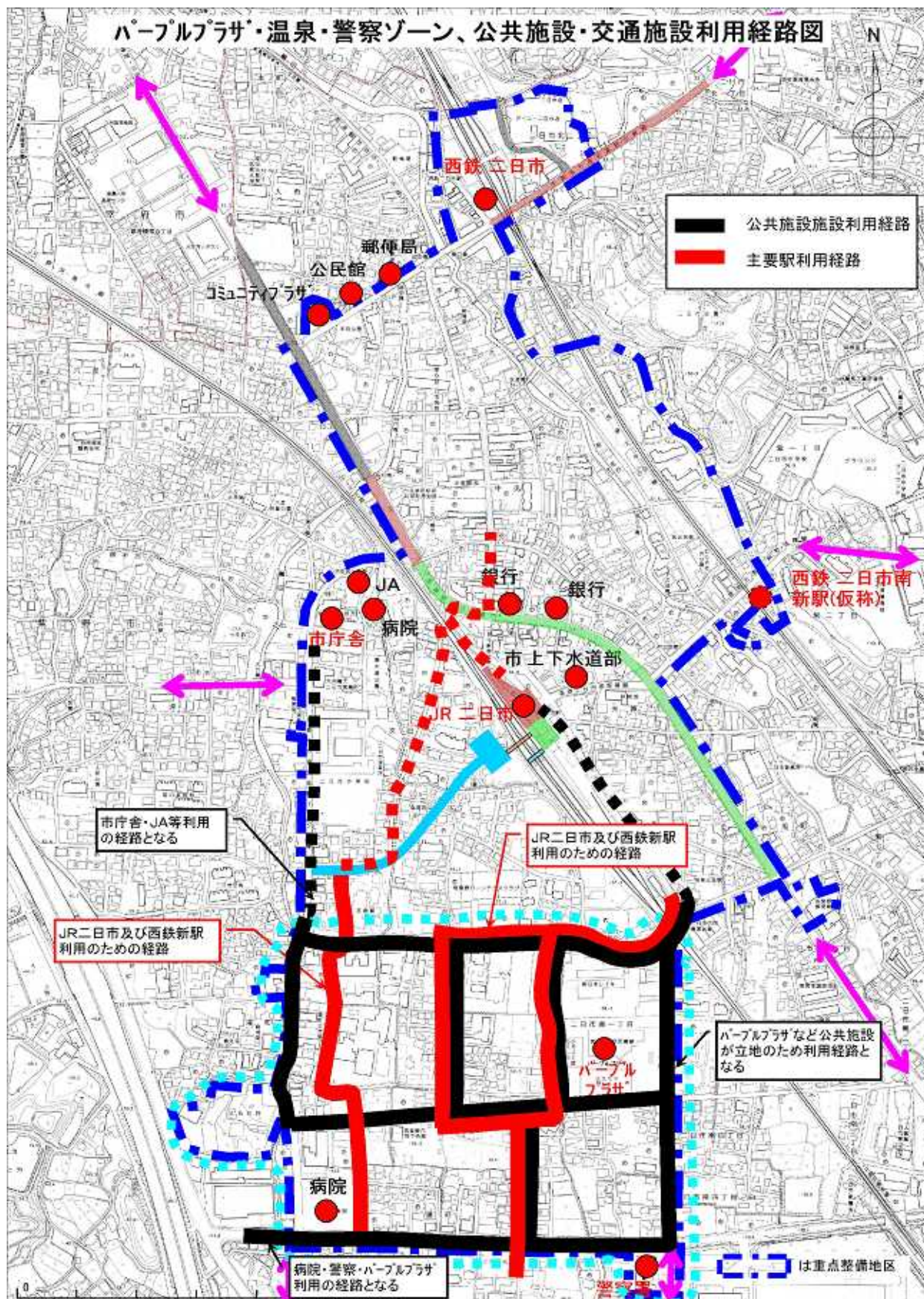


図 7-7 パープルプラザ・温泉・警察ゾーン